

視点

後期高齢者の外来診療 報酬は別建でどうか

超高齢社会に向けて、入院の診療報酬は、地域包括医療病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟、医療療養病棟、そして介護医療院と体系的に整備されてきた。しかし、老人向けの外来の診療報酬をどうするかという議論はあまり進んでいない。

これは、かつて老人の診療報酬を若人と変えるのは差別ではないかという議論があったからだ。しかし、後期高齢者は、一人で複数の疾患を持っている、薬物の体内動態が異なる、フレイルや認知症が増加するなどの特徴がある。だ

から、外来診療もこの特徴に合わせて提供されてしかるべきだ。

例えば、在宅で要介護ともなると外来診療は家族の支援も受けて一日がかりになる。しかも、複数疾患を持っているから、内科ばかりでなく、整形外科、眼科、皮膚科など、複数のかかりつけ医に行かなければならない。これなど総合診療医のところでワンストップで提供できないものだろうか。

また、薬については残薬が多いと言われているが、それ以前に、老人の心身の特徴に応じた薬の用法・用量は若人とは別にしてもい

いのではないか。小児科では、そうなっているのだが。

フレイルや認知症についても、今の市町村ベースの保健事業や介護予防では物足りない。後期高齢者診療報酬で予防給付を設けて、診療所による早期発見と早期介入を評価してはどうか。

財務省から、都会の外来診療報酬は医師過剰は正のために一点単価を下げるとか、老人診療報酬は包括払いでやれとかの暴論を言われる前に、後期高齢者の外来診療についてそのあり方を若人とは別建で検討してはどうか。

社会保険旬報

目次

No.2976 2025年9月21日

視点

後期高齢者の外来診療

報酬は別建でどうか 3

座標

病院団体が診療報酬改定率10%超を要望

内科系症例の評価で新たな指標案提示 4

AJMCが逆紹介割合の調査結果を公表

協会けんぽが8年度保険料率の議論開始 ... 5

レコーダ

医療経済フォーラム・ジャパン

第123回定例研修会

2026年度診療報酬改定の課題と展望

林修一郎 6

論評

非医療としての「介護」誕生前夜

—1998年「福祉のターミナルケア」

論争とは何であったのか

柏崎郁子 16

随想—視診・聴診

興味なし

高山哲夫 23

潮流

令和6年度の概算医療費を発表 24

国内医薬品市場の動きを見る 28

全世代型社会保障への道筋⑨

新たな段階に入った人口動態の変化

山崎泰彦 29

NEWS

厚労省が医療安全管理者の役割など

5つの論点を提示 30

第62回診療報酬請求事務能力認定試験

歯科・学科・実技試験問題の解答と解説

..... 55

経済スコープ

..... 57

編集室・ワードカプセル

..... 58